
とある骸骨のお話

泥田坊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある骸骨のお話

【Z-URD】

Z-URD

【作者名】

泥田坊

【あらすじ】

元人間の骸骨さんがファンタジーな世界で生きる話です。作者の手が空いた時にちょくちょく書いて、上手くなつていければな、と思つてます。

骸骨さんは森暮らし（前書き）

初回は主人公の身の上話です。

骸骨さんの森暮らし

骸骨さんの日常

俺は骸骨である。森に小屋を作つて、そこに住んでいる。ひょんなことから骨だけになつてしまつたが、これでも元々は人間だつた。まあそれほど元に戻りたいとも思わない。食事も要らないし、こんな姿で悲しむ家族も居ないし。のんびり骨として暮らすかな、と思つてゐる。

最初は厚着して姿がばれない様、旅をしてたのだが、とある町で姿を見られた。直ぐに追い出される様な事もなかつたのだが、やつぱり面倒だから少ししたらここを出るか、と思つてると、とある奴が俺のことをモンスターだわつと言つて、襲いかかってきた。そいつを返り討ちにすると、

”やはり危険なモンスターだ”

”討伐するべきだ”

など、好き勝手言い、冒険者とやら総出で襲いかかってきた。別に殺した訳でもないのに、えらい大袈裟である。そんな町はこっちからお断りじゃあーと言いながら、必死で逃げた。その後、他の町に行くと、

”骸骨出没注意！”

だなんて貼り紙が出ていた。俺は街道に出る熊が何かか。町人から無理矢理聞いた所、どうやらギルドを通じて、この近辺の町全てにこの貼り紙が出回ったらしい。そんなに俺が居る訳も無いだろに。そんな訳で、表に出られなくなつたから、仕方なくこの森で暮らしている。

骸骨さんと森の紹介（前書き）

ヒヤツハー！

年末投稿だ！

骸骨さんと森の紹介

さて、俺の住んでいるこの森だが、普通の動物がほとんどいないところである。そのことを説明するには魔力の事を話さねばならないだろう。

魔力とは魔術等を使う為に必要な物なのだが、まあそのことについての説明は後でいいだろう。今重要なのは魔力は生物の体に触れた時、空気が気圧の低い所から、気圧の高い所へ流れるように、魔力が吸収されるのだ。それは大抵が生物が魔力を消費した時だが、空気中の魔力量が高い場合、魔力が生物の身体へと流れしていく事があるのだ。

話を戻すがこの森の空気には瘴気が含まれているそうだ。瘴気とは魔力が何らかの原因で変質した物なのだそうだが、生物の身体はそれを魔力と誤認し、誤つて体内に吸収してしまうそうだ。さらに瘴気は体内の魔力を犯し、云々・・・まあ、瘴気について俺も詳しくは無く、周囲の村人の受け売りだ。また植物は瘴気が発生した時、極稀に瘴気に対応し、進化する事がある。（動物も瘴気に対応するかもしれないが、対応する前に逃げるのだ。）この森はそんな稀なパターン何だとか。言いたいのは、この森には空気中に瘴気が含まれており、それがある程度、生物の身体に入れれば普通は死ぬ。だから、人間だけでなく、生物の大半はこの森に入つてこないのである。

だから、この森には瘴気に馴染んだ植物以外の生物は居ないはず……と言ひ訳ではなく、面倒なあいつ等がこの森には住んでいるのだ。

モンスターだ。

骸骨セシル森の紹介（後書き）

やつぱりみじけえ…でも週末の金土日にては投稿するって決めたんだよな…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7070z/>

とある骸骨のお話

2011年12月31日23時48分発行